学校だより
三年先の稽古
発行：校長　益子　朗

目指すべき生徒像

体　鍛える大信中生
徳　温かな大信中生
知　学ぶ大信中生

祝・平成三十年度
卒業証書授与式

　本日は、平成30年度白河市立大信中学校の卒業証書授与式です。

　創立一周年を目前とした昭和44年３月に第１回（昭和43年度）卒業式が行われていますので、五十周年の今年度は第51回となります。今年度卒業する45名の皆さんを加えて、卒業生は計三千五百名となりました。

　卒業生の皆さん、誠におめでとうございます。伝統ある大信中学校の卒業生であることを誇りに、それぞれの道でご活躍ください。在校生の皆さん、今日の感動を忘れず、自分たちも素晴らしい卒業式を迎えられるよう、日々頑張って行きましょう。

平成３０年度白河市立大信中学校
卒業証書を授与される者

３年１組	３年２組
大川原由佑	伊藤　優人
小野　大地	宇内　　輝
金内　隆星	柿井　愛喜
菊地幸太郎	國井　翔矢
佐藤　光翼	小磯　飛羽
佐藤　健琉	佐久間大晟
田中　友也	佐藤　　碧
戸田　裕登	鈴木　充紀
長谷川海利	鈴木　勇喜
渡部光太郎	平山　華月
渡部　龍二	吉田　柊哉
大越萌々香	大越菜々香
大沼　樹里	大竹　希波
小沼　若葉	大竹向日葵
白石　紗英	兼子　萌華
添田　乙葉	佐藤　綾音
高久　春花	佐藤　莉沙
髙橋　美久	塩田朋和李
円谷　美沙	十文字唯衣
深谷咲里愛	鈴木　華梨
吉成　眞凛	高久　優亜
渡辺　永遠	円谷　穂香
	渡部　りさ

男子２２名　女子２３名
計４５名

お詫びと訂正（3年生の皆さんへ）

卒業文集で、校長の文章の最後の一文を下記のように訂正いたします。

×「皆さんの前渡に幸多かれ」
←
○「皆さんの前途に幸多かれ」

式辞

（冒頭の挨拶などは省略いたします）

三年生の皆さん、ご卒業おめでとう。心からお祝い申し上げます。三年間、仲間と過ごしてきた楽しい日々も、間もなくかけがえのない宝物になろうとしています。

思えば皆さんは、八年前の小学校一年生の終わりに、あの東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故を経験しました。それ以降は、学習や生活にも様々な影響を受けてきました。外で運動ができなかった時期もあり、とても不安だったことでしょう。その分、様々な場面で多くの人々に支えられながら、学校生活を送ることの幸せも、きっと感じたことでしょう。

中学校生活最後の今年度、皆さんは全校生徒を力強く引っ張ってくれました。生徒会活動や部活動、それに聖流祭などの学校行事で皆さんが見せてくれたリーダーシップは、まさに最高学年にふさわしい立派なものでした。

中体連大会では、バレーボール部とバドミントン部の団体・個人、卓球部の個人が県大会出場を果たし、陸上・男子砲丸投げで小磯飛羽選手が県大会５位入賞の快挙を果たしました。また野球部は民報杯県南大会１位で県大会に出場し、ソフトテニス部、特設駅伝部も大会では大いに健闘してくれました。

文化面でも、音楽部や特設合唱部はコンクール出場は勿論、大信地域の行事でも度々演奏を披露し、皆さんにとても喜んでいただきました。また学芸部は楽しい作品の数々で、いつも校内を明るく飾ってくれました。

さて、皆さんは卒業とともに、小学校から一緒に過ごしてきた同級生と別れ、それぞれの道に進みます。新しい道では、多くの新しい仲間と出会うことでしょう。その新しい仲間たちと力を合わせ、また彼らに負けないよう、精一杯、何事にも挑戦していってください。皆さんなら、きっとできます。「三年先の稽古」を忘れずに、将来をしっかり見据え、自分自身を鍛え育ててください。

これから皆さんの道のりには、時には苦しいことや辛いこと、夢が破れることもあるかもしれません。そんな時は、母校での日々を思い出し、自分を信じ、仲間を信じて、前を向いて歩いて行ってください。どんなに険しい道でも、自分さえ足を前に踏み出せば、必ず前進できるのです。

今年度、大信中学校は統合五十周年の節目を迎えました。卒業生は今年度までてちょうど三千五百人になります。皆さんにはこれだけ多くの先輩方がいることを忘れないでください。そしてこれからは、皆さんも同窓生の一員として、母校を支える心強い存在になってください。

（結びの挨拶などは省略いたします）

最後に、卒業生諸君の新天地での活躍を心から信じ、かつ末永く幸多きことをお祈りし、式辞といたします。

平成三十一年　三月十三日
白河市立大信中学校長
益子　朗

3・11

東日本大震災・福島原発事故　から８年・・

平成23年３月11日（金）の東日本大震災そして福島第一原子力発電所の事故から今年で８年となりました。

本校では３月11日（月）に全校朝会で、犠牲者への黙祷を捧げ、校長講話を行いました。その内容をご紹介します。

○まだ過去の災害ではない

福島第一原子力発電所の建物は壊れたままで、原子炉の内部の様子もまだ調査中です。事故当時、原子炉内の燃料を無事に取り出して「廃炉」にするには30〜40年かかると言われていましたが、もう８年たって、計画は大幅に遅れています。もしもう一度大地震や津波が来たら、あるいは猛烈な台風にでも襲われたら、原子力発電所はどうなるでしょうか。再び放射性物質がまき散らされないという保証はありません。

もう一つ。風評被害です。未だに全国で12％の人が福島県の産物は食べないと言っているそうです。検査しても、もう安全であることは確かなのに、残念です。福島県の農業や漁業への打撃は計り知れません。

○被害者意識からの脱却、自立への決意を！

震災と原発事故は、確かにたいへんな災害でしたが、かといって泣き寝入りしていては前に進めません。嘆いたり、救いの手をただ待っていたりするのではなく、風評被害を払拭するような良質な産品をつくって、実力で立ち直っていかなければなりません。

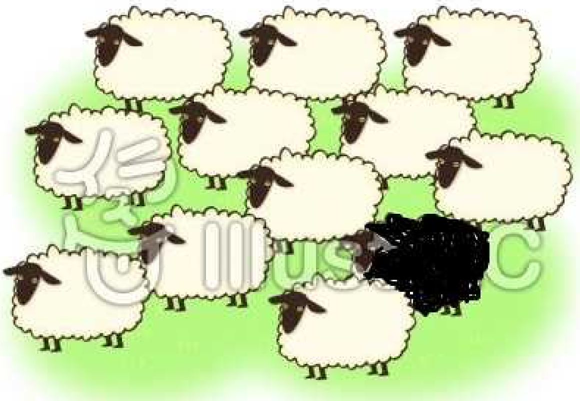
福島県は日本酒の品評会での金賞獲得数が５年連続で日本一です。また先日の都道府県対抗男子駅伝では強豪を抑えて見事に優勝しました。このように、堂々と実力で見返す気迫が必要ではないでしょうか。

欅坂４６「黒い羊」

作詞：秋元　康

（一部抜粋）

：
真っ白な群れに悪目立ちしてる
自分だけが真っ黒な羊
：
と言ったって同じ色に染まりたくないんだ
白い羊なんて僕は絶対になりたくないんだ
そうなった瞬間に僕は僕じゃなくなってしまうよ
まわりと違う　そのことで誰かに迷惑かけたか？
：
自分の色とは違う　それだけで厄介者か？



○より強く、より優しくなろう！

先日テレビを見ていたら、欅坂４６の新曲が偶然にも「黒い羊」というタイトルでした。

ニュージーランドで聞いたお話ですが、羊は殆ど白色ですが、二千頭に一頭くらい、まれに黒い子どもが生まれるのだそうです。しかし黒い羊を白い羊の群れに入れると必ず周りからいじめられて、えさを食べたり水を飲んだりすることもできないので、専用の牧場に移されてしまうのだそうです。

生まれつき黒毛だというだけでいじめられる・・。私たち人間社会のいじめと全く同じ構造ではないでしょうか。

福島県の産品が買われなかったり、また他県に避難した子どもが学校でいじめられたりするニュースが伝えられる度、私たち福島県民はとても辛い思いをしてきました。だからこそ、私たちは強く、優しくならなければなりません。風評被害のように、謂われのない悪口ぐらいでへこたれず、それをはね返すくらいの強さを持ちたいものです。

そして、それよりさらに大切なのは、優しさです。辛い、苦しい思いをした人間が、その思いを他の誰かにもさせようとするでしょうか。突然の巨大災害に見舞われさらには風評被害にまでさらされて、その辛さを知る福島県民が、人をいじめる側に回るなどということは、とても考えられないし、そんなことをするのは恥ずべきことです。

この未曾有の大災害から中学生に学んでほしいことは、より強く、より優しくなることです。